

製品名: クラステリンウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09073**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	52kDa

抗原情報

遺伝子名	CLU CLU; APOJ; CLI; KUB1; AAG4; Clusterin; Aging-associated gene 4 protein; Apolipoprotein J;
別名	Apo-J; Complement cytolysis inhibitor; CLI; Complement-associated protein SP-40; 40; Ku70-binding protein 1; NA1/NA2; Testosterone-repressed prostate m
遺伝子 ID	1191.0
SwissProt ID	P10909
免疫原	抗血清はヒト CLU 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 400-449

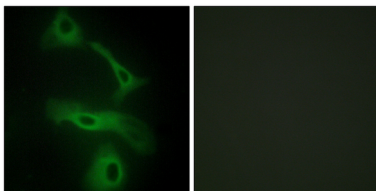
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は分泌型シャペロンであり、特定のストレス条件下では細胞質にも存在する。細胞死、腫瘍の進行、神経変性疾患といったいくつかの基本的な生物学的イベントに関与することが示唆されている。選択的スプライシングにより、コーディングバリエーションとノンコーディングバリエーションの両方が生じる。[RefSeq 提供、2011年5月]機能: 未だ明らかになっていない。様々な組織で発現することが知られており、細胞、膜、疎水性タンパク質に結合できると考えられる。プログラム細胞死 (アポトーシス) との関連が示唆されている。類似性: クラスτεリンファミリーに属する。サブユニット: 逆平行ジスルフィド結合ヘテロ二量体。APOA1、CLUAP1、PON1 と相互作用する。、

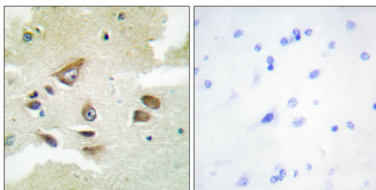
研究分野

-

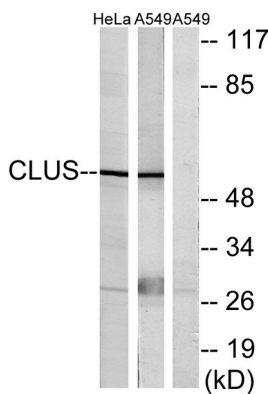
画像データ



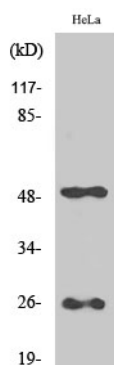
CLUS 抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



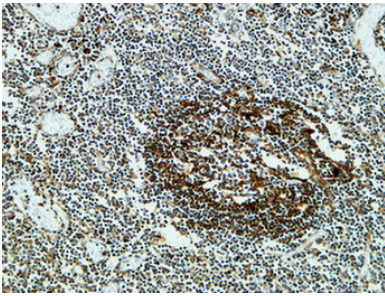
CLUS 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



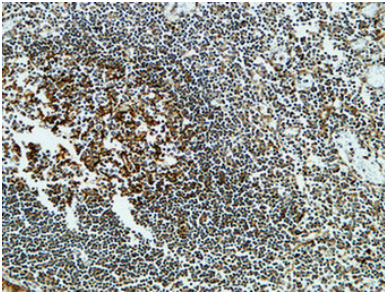
CLUS 抗体を用いた HeLa 細胞および A549 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



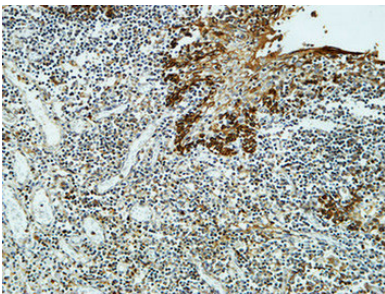
クラスτεリンポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析



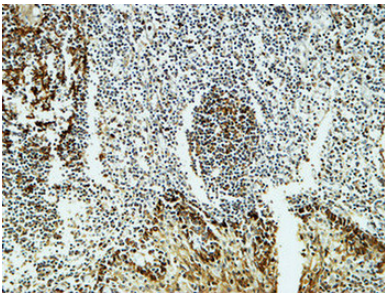
パラフィン包埋ヒト扁桃体の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:400 (4°、一晚) に希釈した。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 (室温、30分) に希釈した。



パラフィン包埋ヒト扁桃体の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:400 (4°、一晚) に希釈した。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 (室温、30分) に希釈した。



パラフィン包埋ヒト扁桃体の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:400 (4°、一晚) に希釈した。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 (室温、30分) に希釈した。



パラフィン包埋ヒト扁桃体の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:400 (4°、一晚) に希釈した。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 (室温、30分) に希釈した。